

瀧谷山報

通巻 173号
[令和4年1月発行]



【今後の当山行事予定】

初不動大法会 1月28日



●御本尊御開扉大護摩供
【本堂】
〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時



●大般若経転読付大護摩供
【本堂】
午前11時30分
(時刻は滝不動堂山伏に直接お尋ねください)



●滝不動堂護摩供
【滝不動堂】
午前9時頃～午後2時30分頃まで
(時刻は滝不動堂山伏に直接お尋ねください)

節分会 2月3日

●節分会
厄除けのご祈祷
【本堂】
〈午前〉7時・9時30分・
10時30分・11時30分
〈午後〉1時30分・3時・5時
※混雑時は本堂への入堂制限を実施いたします(7頁参照)。



●如意宝珠のお授け
【客殿内特設道場】
午前9時～午後4時
※福豆まき式・甘酒のお接待は中止いたします。
※節分会当日は交通安全祈願のお勧めはございません。



花まつり 3月28日～4月8日

●灌仏供養(甘茶かけ)
【事務所】
午前9時頃～午後4時頃
※甘茶お接待は中止いたします。

春季大祭 5月28日

※行事予定は12月1日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

■日々のお護摩祈祷

- 迎春期間…〈午前〉7時・10時・11時30分(2月15日まで) 〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日…〈午前〉6時・10時・11時30分 〈午後〉1時30分・3時
- お磨きの日…午前7時
(2月16日以降は平日午後のお護摩祈祷はございません)
迎春期間中、混雑時は本堂への入堂制限の実施を予定しております。

■交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分(30分毎)
(毎月28日および2月3日は交通安全祈願はございません)

■お磨きの日のお知らせ

●1月25日 ●2月25日 ●3月25日 ●4月25日
この日は仏具磨きの日ですので、お護摩祈祷は午前7時だけです。

令和4年1月発行
通巻173号

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058 富田林市彼方1762 電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純光 ●編集人：荒谷純栄



得難き仏教(2)

前号においては、仏教に出遭うための時間と空間の話
を申し上げた。そこで今回は人に生まれることが仏教選
近のためにいかに重要であるかを確認しておきたい。

世の中に不思議なことは数ある中で、とりわけ不思議
なものとして生命の誕生を挙げることができる。この
テーマは古代から現代に至るまで連続と追求されてきた
至上の課題。遡れば様々な神話や伝承の類いもこのこと
を物語り、数多くの宗教にはこれと深く関わる相克の歴
史もある。そしてこの課題に対する真の解明は、今もな
お途上のみである。

文化勲章も受けられた進化生物学者の木村資生氏によ
れば、一個の生命細胞がこの世に誕生し得る確率は、一
億円宝くじを百万回連続当選させねばならぬほどに稀で
あると説明されている。たった一個の細胞でこれほどな
らば、この地球に生存する無数の生命体が種々に生み出
されることも瞠目に値する、まして三十数兆もの細胞か
ら成り立つと考えられるヒトという生命に至れば、気が
遠くなるほどの天文学的数字でその確率が割り出される

善きことを無限大に実行できることは、人間に与えら
れた素晴らしい能力である。その能力をこの人生の中で
最大限に発揮できるように努めることこそ、人が人とな
る道であり、私たちの最たる目標に他ならない。

江戸時代の後期に南河内で範を垂れた慈雲尊者飲光と
いう高僧は、その名も『人となる道』と題した啓蒙書を
著して人々を教導した。身体と言葉と心の三つの行動様
式をどのように整えれば「人となる」ことに通暁するか、
その大要を説いた。その慈雲尊者も釈尊や弘法大師同様
に、人が仏教に出遭う不思議さとその深意を知る人で
あった。

あらためて私たち自身は、稀有なる条件を満たして誕
生し得たことを有難く重く受け止め、さらに得難き仏法
と出遭えた大いなる喜びをかみしめたものである。

文中に紹介した慈雲尊者ゆかりの高貴寺や西行法師終
焉の弘川寺は河南町に在る。瀧谷山の周辺にはこうした
古寺名刹が多い。新しき年を迎えたこの時節、訪ねれば
厳粛な思いで手を合わせるに違いない。

だろう。

仏教ではこの世に存在する命(衆生)を六つに区分する。
すなわち地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道
の六道といわれ、それぞれに特徴を有するが、いずれも
が生死を繰り返す(輪廻している)三界の内にある。
地獄道・餓鬼道・畜生道の立場は、多大な苦しみに苛ま
れて生存するゆえに三悪道、あるいは三悪趣と称する。
私たち人間として、自身の行い如何によってはこの三悪道
に墮する危うさを常にはらんでいる。

私たち人間は善き行いもすれば、悪しき行為にも走る
二面性を有し、人生の大半を振り子のように右往左往を
繰り返すばかりかもしれない。それでも人間の特性を深
く見つめれば、悪しきを憎みて善なるものを尊ぶ本質を
宿している。それゆえにかの有名な七仏通誠の偈「諸悪
莫作 衆善奉行」(悪いことはせず、善きことなすべし)
という金言が人の心に染み入るのであろう。六道の中で
仏の教えに親しむことが可能となるものは、やはり人道
をおいて他にない。



【慈雲飲光】

1717(享保3)年—1804(文化1)年、大坂に
生まれる。13歳で出家得度し、戒律の復興と
梵語(サンスクリット語)研究に努めた。布教に
も尽力し、その講話は『十善法語』『人となる道』
などに筆録される。能書家としても知られた。

初不動

1月28日

大般若経転読付大護摩供厳修



「大般若経転読」とは…

「大般若経転読」とは大勢の僧侶が集まり、六百巻におよぶ「大般若経」の蛇腹折の経本を、大きく宙に広げるようにして読誦します。一斉にたくさんの経本が開かれ、高い位置から落とすようなダイナミックな動きが見どころの一つです。経本が勢いよく捲られることによって起こる風をその身にうけると長寿がかなう、厄除けになるともいわれています。

一年最初のご縁日である一月二十八日には初不動大法会が営まれます。当日は秘仏御本尊がご開扉され、お護摩祈祷が盛大につとめられます。

午前十一時半からは、国家安穩・万民豊樂等を祈念する大般若経転読付大護摩供がつとめられ、あわせてご信徒皆様のお願い事を祈願いたします。

また滝不動堂では山伏たちにより護摩供がつとめられ、諸願成就を祈願しております。滝不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

初不動法会にご参拝いただき、一年始まりのご縁日にお不動さまとのご縁を深められますよう、ご案内申し上げます。

【大般若経転読付大護摩供】

- 法要時刻：午前11時30分
- 祈祷料：5000円より

【滝不動堂護摩供】

- 時間：午前9時頃～午後2時30分頃
(詳細な時刻は滝不動堂山伏に直接お尋ねください)
- 護摩木：1本3000円
(山伏による宝剣加持は休止しております)

節分会

2月3日

厄除大祈願祭



厄年とは…

厄年は、星の巡り合わせが悪く、災厄を受けやすい年齢とされています。また、社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかかって病気になるやすい年齢、結婚・出産・育児など生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。特に男性の42歳・女性の33歳は本厄と言われ、前後にひびく厄とされています。

節分会 厄除けのご祈祷

厄年は、災厄を受けやすく、肉体的・精神的・社会的な節目を迎える年齢です。瀧谷山では、厄年を無事に過ごし、健やかにより良い毎日を送れますよう、厄除けのご祈祷をおつとめしております。節分当日は、特に盛大におつとめいたします。

厄除けは古来、旧暦で一年の節目である節分までにするものとされますが、瀧谷山では年中厄除けのご祈祷をおつとめしております。ご都合の合わない方は、時節にこだわらずお参りください。

- 祈祷時刻：12頁(裏表紙)記載
- 祈祷料：5000円より

※本堂は伝統建築のため、冬季は冷え込みます。お参りの方は、暖かい服装でお越しください。

※大幅な混雑時は本堂への入堂制限を実施いたします(7頁参照)。

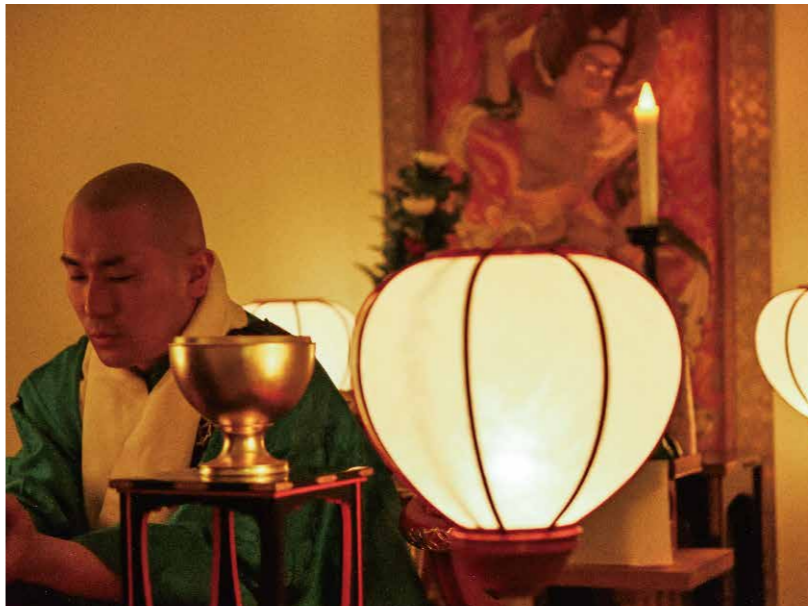
◆令和4年厄年早見表(年齢は数え年)

男性		女性	
平成10年生まれ	25才厄年	平成16年生まれ	19才厄年
昭和57年生まれ	41才前厄年	平成3年生まれ	32才前厄年
昭和56年生まれ	42才本厄年	平成2年生まれ	33才本厄年
昭和55年生まれ	43才後厄年	昭和64年・平成元年生まれ	34才後厄年
昭和37年生まれ	61才厄年	昭和61年生まれ	37才厄年

如意宝珠のお授け

節分当日、意のままにあらゆる願いをかかなえると言われる宝物「如意宝珠」のお授けをいたします。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理如來の分身なり」と述べられ、如意宝珠とは、限りない慈悲の心に満ちた如來のお身体そのものであると説かれ



如意宝珠のお授け

ています。弘法大師以来、如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切に祀りしておりますが、皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただきたいという思いから、一年に一度のみ、節分会に皆様にお授けしております。

お授け後、如意宝珠守を授与いたします。財布などに入れ、肌身離さずお持ちください。

- 場所：客殿内特設道場
 - 時間：午前9時～午後4時
 - 志納料：1体 1000円以上
- ※新型コロナウイルス対策のため、如意宝珠に触れていただくことは出来ません。

星まつり祈禱のご案内

瀧谷山では、星まつりと称しまして一年の節目である節分の日、人々の吉凶を左右する九曜星を供養し、災厄を除き福運を招くお預かり祈禱をおつとめしております。年齢や当星にかかわらず、同封の用紙にご記入いただき、一年を平穩無事に過ごし、運が開くよう願ってお申込みください。

- 節分までにお札をご用意しますのでお申込みは1月20日を締切とさせていただきます。
- 祈禱料：1名 500円
- 締切：1月20日

◆令和4年九曜星早見表(数字は数え年)

○木曜星	○月曜星	●計都星	●火曜星	○日曜星	●金曜星	○水曜星	●土曜星	●羅喉星
大吉	半吉	大凶	大凶	大吉	末吉	大吉	半吉	大凶
四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄
9	8	7	6	5	4	3	2	1
18	17	16	15	14	13	12	11	10
27	26	25	24	23	22	21	20	19
36	35	34	33	32	31	30	29	28
45	44	43	42	41	40	39	38	37
54	53	52	51	50	49	48	47	46
63	62	61	60	59	58	57	56	55
72	71	70	69	68	67	66	65	64
81	80	79	78	77	76	75	74	73
90	89	88	87	86	85	84	83	82
99	98	97	96	95	94	93	92	91

厄年… 前厄年・後厄年…

開運福豆 新春の縁起物 ご案内

1月中旬より2月3日まで、お不動さまにお供えしました開運福豆を授与しております。福豆は、ご自宅にて小分け袋に入れ豆まきをされるほか、それぞれに召し上がっていただきご利益をお受けください。豆ご飯・豆の酢漬け・豆カレーなど、芳ばしい豆の香りが季節を感じさせてくれます。

また迎春期間中(2月15日まで)、令和4年新春の縁起物を授与しております。熊手・矢守等の縁起物や、竈の神さまである荒神さまのお札・家中を守護してください。お不動さまの護摩札など、縁起物を掛け替え、新しいお札に手を合わせると、新年を実感できるものです。どうぞ期間中にお受けください。

【開運福豆】

- 授与期間：1月中旬～2月3日
- 志納料：1袋 250円

【令和4年縁起物】

- 授与期間：2月15日まで
- 主な縁起物：
 - 熊手・矢守・えとみくじ・護摩札・三宝荒神札等



開運福豆



新春の縁起物

新型コロナウイルス対策について

迎春期間中(2月15日まで)、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の対策を実施いたします。

- 本堂への入堂制限(お護摩祈禱)
 - お護摩祈禱では、大幅な混雑時には本堂への入堂制限を実施いたします。

本堂への入堂はご祈禱申込のお施主ご本人様のみに限らせていただき、お連れ様は客殿大広間に待合所をご用意いたします。待合所には、ご祈禱の様子をモニターで中継いたしますので、分かれてご参拝いただくようお願いいたします。

- 花まつりでの甘茶お接待の中止
- 緊急事態宣言が発出された場合、緊急事態宣言が発出された場合、初不動・節分会では授与品等の一部受付窓口を縮小します。お護摩祈禱・交通安全祈願・滝不動堂護摩供・如意宝珠のお授けは記載通り行います。
- 手水舎・鰐口・梵鐘の使用停止
- 滝不動堂での護摩木宝剑加持の休止
- 節分会の福豆まき式・甘酒お接待の中止

おんあぼきや。
べいろしゃのう。
まかぼだら。
まにはんどま。
じんばら。
はらはりたや。
うん。

瀧谷山で毎朝お唱えする『瀧谷山礼拝法則』の解説。一年ぶりの掲載となりました。今回は「光明真言」。光明真言は、死者供養のために唱えられる真言として有名です。それは、亡くなった人を埋葬する土砂を光明真言で加持すれば、その人の生前の罪を滅して浄土に導いてくれるとされるからで、真言宗の葬送儀礼では必ずお唱えされます。瀧谷山の観音まつり法要では、お戒名の読上げが全て終わるまで、途切れずに光明真言を唱和しますが、それもこのような意味があります。

は全体を見ながらどっしりと構えている、そのようなチームでは選手たちも安心して身を任せ、持てる力を余すところなく発揮できることでしょう。大日如来とお不動さまの関係も、この監督とコーチの似ています。そしてチームの朝礼では、まず監督の言葉があって、全体が引き締まるもの。同じように、私たちもこの『礼拝法則』のおつとめを進めていくにあたり、まず大日如来のお力をいただくため、ここで光明真言をお唱えするのです。

さて光明真言の文句の意味は、ごく簡単に説明すると「ごつとりの智慧の光明が、いっそう光り輝き、生きとし生けるものに届くように」というもの。もちろんこれは一つの解釈であり、真言の意味には、私たちの言葉の意味では汲みきれないものがあり、意味そのものよりも真言をお唱えすることで仏さまとご縁を結ぶという側面が大事なことは忘れてはなりません。

ところで前回の「三昧耶戒真言」の解説の中で、私たちはみな菩提心ぼだいしんという心、仏さまの種たねのような心を持っていて、その心をなくさない限り、私たちは仏さまと等しいという話がありました。これが実は、大日如来と私たちの深いご縁をあらわすもので、私たちはみな大日如来から慈悲の心、太陽のような光を等しく分け与えてもらった、その

ただ、毎朝のおつとめで光明真言をお唱えするのは、死者の供養のためではありません。これまで見たきた『礼拝法則』のおつとめでは私たちは戒を授かり、心身を清らかにして修行に備える段階にありました。その上で、これから読経に入っていくのですが、まず初めに大日如来のご真言として光明真言をお唱えし、大日如来に帰依する、それがここで光明真言をお唱えする理由です。

大日如来のご真言を、本尊であるお不動さまのご真言よりも先にお唱えするのは、とりもなおさず大日如来が真言密教を説かれた仏さまであるからで、大日如来は真言密教のたくさんの仏さまのリーダーのような方であるからです。大日如来はその名前のごとく太陽のような光の仏さまであり、太陽がその光の恵みをあらゆるものに分けへだてなく施すように、あらゆる生きとし生けるものをその偉大な慈悲の心で包み込んでくださる仏さま。また詳しくは別の回に説明しますが、お不動さまの本来の姿は、実はこの大日如来だとされています。お不動さまの忿怒の表情の奥には、本当は穏やかな微笑みをたたえた大日如来の顔があり、人々を優しく見守っているのだと言われています。

人の社会、特にスポーツチームに例えてみても、日々接するコーチは力強く時に厳しく導いてくれ、その奥で監督ご縁をご真言で表すと「おんさんまやさとばん」「おんあぼきやべいろしゃのう」となる、ご真言とはそのようなものなのだと思います。とはいえ、このようなご縁をいただいているも、種たねを育てて実らせられるか、自分の内なる光明を失わず、目の前の人を明るく照らせるかは、やはりその人次第。楽に流れ、怒りに迷う私たちには困難な道に他なりません。

そんな私たちを時に厳しく、力強く導いてくださるのがお不動さま。今回はお不動さまのご真言をお唱えします。



山上の多宝塔には大日如来がお祀りされ、不動経写経が奉納される。

お寺のごはん

7 ごま豆腐

お精進のご馳走となるとやはり一番はごま豆腐です。何より時間と手間のかかることはこの上ありません。乾燥胡麻を一晚お水につけてもどし、すり鉢ですり、袋に入れて漉して絞り出し、さらにじっくりと火を通して練り上げます。そして調理したその日にいただくのが一番ですから、ちよっと本物となると手に負えない代物です。

お客様にお出しする前々日から三日がかりで、お出しするまで体力、気力の勝負です。気の抜けるときはありません。

むかし母はその通りにしていました。私にはとてもまねはできません。そこで無精者の私でもなんとかできるものと考え今に至ります。



- 材 料**
- 練り胡麻の缶詰 (市販の練り胡麻はたいていは煎り胡麻です) 300g くらい
 - 吉野葛 100g
 - お水 ごまの空き缶3~4はい。お水が多いほどやわらかく滑らかですが、暑い時期にはかたまりにくく、また冬は冷えてしまいますので少しやわらかくしたほうがおいしいと思います。
 - 流し缶 2個 (13~15センチくらいの物)

- 作り方**
- 吉野葛を分量のお水に溶かして一度漉します。練り胡麻にあわせて、よく混ぜます。
 - 大きめのお鍋で火にかけて、木べらをお鍋の底から離さないように気をつけて混ぜながらじっくりと煮ます。火加減と混ぜる速度のバランスが大切で、火が強すぎると焦げてしまいますし、弱すぎると葛に火が通りません。お水加減は様子を見ながら、途中で増やしてゆくこともできます。
 - 根気よく1時間ほど練りながら煮ます。火が通ったら、透明感ができます。全体によく火が通ったら、すばやく流し缶に移して上にキッチンペーパーをかぶせてお水を張り表面の乾燥を防ぎます。
 - 大きなバットにお水を張り、割り箸を並べてごま豆腐を流し入れた缶とバットの間にお水が通るようにして置き、荒熱を取ってから冷蔵庫にいれます。あまり長時間冷やすと葛のでんぷんが戻ってしまってコツコツになってしまうので、早くお召上がりください。
 - 流し缶一個で9人~12人分くらいに切り分けられます。器をもってわさびをのせ、割りしたをお豆腐にかからないように注ぎいれます。また柚子みそなどをかけてもおいしいです。

お知らせ

今年5月28日以降

滝谷不動駅からの車両通行止めがなくなります

府道森屋狭山線の近鉄滝谷不動駅から瀧谷山までの区間は、これまで毎月28日、お不動さまのご縁日にお参りになる多くの方々のため、車両の通行止めが実施されてきました。歩行者天国となった道の両側に立ち並ぶ多くの露店は、地元の名物として多くの人々に親しまれてきました。しかしながら近年、自家用車の普及などにより徒歩でお参りされる方が少なく、交通量の減少に伴って露店の出店も減った結果、慣例となった交通規制だけが残る状態となっていました。

この交通規制のため、地域の皆様には長年不便を忍んでいたっており、もはやこれ以上の我慢をお願いすることは忍びなく、またお参りいただける方法はないものか、露店組合や警察とも協議を重ねた結果、府道の交通規制は終了し、瀧谷山駐車場で露店の出店場所として提供することといたしました。

今年5月28日以降は、府道森屋狭山線の交通規制がなくなり、終日お車での通行が可能となります。安全のため、これまで徒歩で参拝されてきた皆様には、近鉄富田林駅からバスまたはタクシーをご利用くださいますよう、ご案内いたします。また、明王殿前の第1駐車場



は露店が出店しますので、お身体の不自由な方以外は山上駐車場をご利用ください。ご参拝の皆様にはご不便をおかけいたしますが、どうかご寛恕の上、今後ともご縁日にお参りくださいますよう、ご案内申し上げます。※瀧谷山では露店に関するお問合せは一切お受けできません。また、遺失物やトラブルなどに関しても責任は負いかねます。ご了承くださいませ。

～ 編集後記 ～

明けましておめでとうございます。旧年中は何かとお世話になりました。今年も瀧谷山報をよろしくお願いたします。

昨年はコロナ禍の迎春から始まり、開創一千二百年祭、私生活も何かと慌ただしく、あっという間に過ぎ去りました。瀧谷山報も特別号の発行で一回多く、一年中山報の編集から離れられませんでした。

瀧谷山報の紙面も、開創一千二百年を機にリニューアルいたしました。これからもいっそうより良いものを発行できるよう、精進いたします。